

# 平成26年度 英語教育改革への対応 英語教育改革緊急説明会 実施報告(概要)

文部科学省の英語教育改革の現状や方向性に関する最新情報を各私立学校に提供するため、「英語教育改革緊急説明会」を平成26年12月1日TKP市ヶ谷カンファレンスセンターで開催し、全国から340余名の理事長、校長及び英語関係教員等が参加した。

開会に先だち、吉田晋理事長から、「これからの教育は大きく変化していく、なかでも英語教育だけが飛び抜けて変わろうとしている。この説明会の情報は、今日参加している先生だけではなく、学校全体で共有していただき、今後の参考にさせていただきたい」、また、中川武夫所長からは、「今後現場の先生方の意見を集約し研修等に活かしていきたい」との挨拶があった。



今回の説明会では、最初に文部科学省の取り組みについて、文部科学省初等中等教育局国際教育課の圓入由美外国語教育推進室長から、

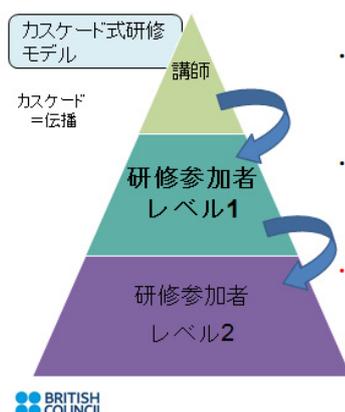
「グローバル人材育成」における豊かな語学力・コミュニケーション能力の育成、

「英語教育改革の動向」では、これまでの改革の経緯と研究開発校の事例について、

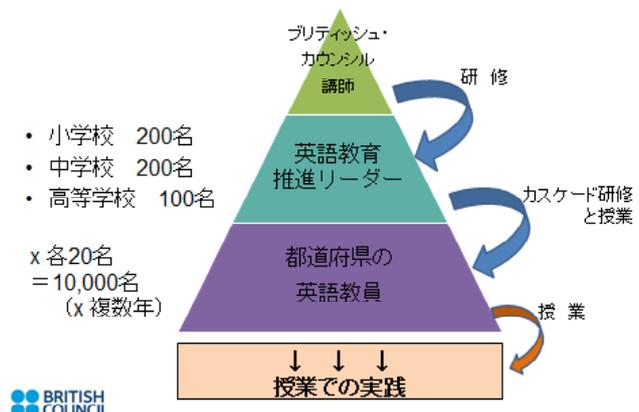
「高校・大学の英語力評価及び入学者選抜の改善」では、検定試験等の活用、入学者選抜の改革スケジュール(案)

などが説明された。

次に、今後の教員養成について、文部科学省から委託を受け「英語教育推進リーダー中央研修」を実施しているブリティッシュ・カウンシルの河合千寿プロジェクトマネージャー(英語教育)から、「現職研修の形態」、「研修の内容・視点」など、新しい英語教育のための教員研修について、500名の指導者を養成し、カスケード(伝播)式研修によりその指導者が各20名の教員を養成することなどの計画が説明された。



- 最終的な目的: 研修を受講した教員が、**自分の授業改善を経て、改革を波及すること**
- 受講者にとって関連性が高く、全体的な文脈をくんだ研修内容と手法
- 研修受講後に実践に移す段階を支援すること**



## ブリティッシュ・カウンシル「英語教育推進リーダー中央研修」概要

### ○研修参加者

教育委員会より推薦され、文部科学省が研修への参加を決定した中学校及び高等学校の英語担当教員

### ○研修の目的

研修終了時に研修参加者が、特に次の項目において、学習指導要領及び新しい英語教育の在り方の趣旨に沿った指導や評価が実現できるようになることを目指す。

- ・生徒の総合的なコミュニケーション能力の育成
- ・英語を用いた言語活動が中心となった授業
- ・生徒の英語学習に対するモチベーションの向上
- ・生徒の英語による言語活動が中心の指導方法
- ・基本的に英語で行う授業
- ・4技能の能力を適切に測ることができる評価法

### ○具体的には、研修終了時には、研修参加者は次のことができるようになっている。

- ・生徒からの視点で研修を体験することにより、総合的なコミュニケーション能力を育成するための授業の利点をより深く理解する。
- ・基本的に英語で授業を行うことを通して、生徒が英語に触れるとともに実際に英語を使用する機会を増やす。
- ・言語活動を行う際、英語で効果的に指示することができるとともに、生徒とのインタラクションを図りながら各言語活動を展開する。  
聞いたり読んだりしたことに基づいて、話したり書いたりすることによって発信する能力を向上させるための様々な言語活動の内容及び指導方法を知り、それらを指導の目的に応じて選択する。
- ・生徒にとって学習する必然性があり、興味深い授業を行うために、教科書や他の関連教材を多様な方法で活用する。
- ・教材の内容理解にとどまらず、聞いたり読んだりしたことに対する自分の意見や考えを発する言語活動により大きな比重を置くことによって、生徒が主体的に内容と関わりながら4技能を活用する授業展開をする。
- ・生徒の認知的なスキルを養うために、リーディング教材を使用する。
- ・教科書以外のオーセンティックな教材及びその扱い方を知り、生徒の知的好奇心の喚起やモチベーションの向上に結び付ける。
- ・生徒の英語学習に対するモチベーションを向上させるために、学習している内容について自己関連性を高めるための機会を与える。
- ・認知的な側面を重視する活動を通して、生徒が新しい語いや表現を実際のコミュニケーションの場面で使うことができるようになるための手助けをする。
- ・生徒が適切な発音で発話したり、自然な速さで話される会話の理解を高めたりするために、発音、リズム、イントネーションに関する指導を活用する。

### ○研修の進め方

本研修は、研修参加者がグループになってタスクを行うという協同型であり、全てのセッションは英語で実施される。様々な教授法について理解を深めるとともに、研修参加者の実践について互いに共有できる機会である。また、研修参加者自身のコミュニケーション能力を向上させる機会でもある。